

<p>課題名 在宅で医療処置が必要な患者・家族の不安に対し在宅生活のイメージを共有した退院支援</p>
<p>(1) 新規に導入される医療 (2) 保険診療の対象とならない医療 (3) 患者に不利となる可能性のある医療 ④ その他</p>
<p>研究責任者 看護師長 小泉さおり、 発表者 看護部 5 病棟看護師 橋本千夏</p>
<p>概要</p> <p>I. 研究デザイン：症例検討 II. 情報：既存で診療録のみ III. 症例対象者：患者 IV. 症例概要：</p> <p>回復期リハビリテーション病棟では、突然の病により自分の思い描いていた生き方が困難となった患者が、障害を受容し退院後の生活を再構築するために多職種で患者・家族を支援している。多くの患者は、退院後も何らかの障害を抱えながら日常生活を制限された状態でそれぞれの生活の場に戻っていく過程で、退院後の「医療と生活の両面」を支援するのは看護師の重要な役割である。</p> <p>今回、退院後も在宅で医療処置が必要な患者に対し、患者・家族の不安に向き合い、どのような生活を送りたいか思いを聴き、患者と一緒に退院後の生活をイメージしながら退院支援を行った取り組みを症例発表として報告する。</p>
<p>V. 症例検討における倫理的配慮：</p> <p>①個人情報の保護：匿名化する ②インフォームド・コンセントを受ける手続き等：電話で口頭にて患者に同意取得済 2025 年 6 月 5 日、看護記録に記録した ③対象者の不利益・負担：無</p> <p>VI. データの保管方法と廃棄：研究責任者は、匿名化された情報は USB メモリ等に保存せず院内パソコン内で管理する。 公表のため、院外から匿名化された情報を、USB メモリを使用して持ち出す場合は、アンチウイルス機能のついた院内指定のものを利用する。 公表後、USB メモリ内の情報は削除し、紙媒体の情報はシュレッダーによる裁断を行う。</p> <p>VII. 添付資料：演題登録用の抄録</p> <p>VIII. 症例検討公表：2025 年 11 月 1 日～2 日 石川県地場産業振興センター本館 NPO 法人 日本リハビリテーション看護学会 第 37 回学術大会での公表を予定している</p>